

「ブリヂストン グローバルコミュニケーション教室～世界につながる伝える力～」授業指導案

株式会社ブリヂストン
NPO 法人企業教育研究会

1. 対象、実施単元

- ・対象: 小学校6年生～中学校1年生(その他の学年の場合は、ご相談ください)
- ・教科: 総合的な学習の時間(国際理解分野、キャリア教育)
社会科地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の発展学習

2. 時間、人数、場所

- ・時間: 中学校: 100 分(50 分×2 コマ)、小学校: 90 分(45 分×2 コマ)
- ・人数: 1 回あたり 40 名～120 名程度(1 クラス～3 クラス程度)
※4 クラス以上の実施の場合実施時間を分けるなどご相談させていただきます。
- ・場所: 体育館、または多目的室

3. 授業のねらい

- ・グローバル化の進展に伴って、日本の国内外において外国にルーツを持つ多様な人と関わる機会が増えているため、多様な人とコミュニケーションをとる力が大切であることを学ぶことができる
- ・ワークショップを通じて外国にルーツを持つ子どもとのコミュニケーションを疑似体験し、自分の意図を相手に適切に伝える難しさを体験し、学ぶことができる
- ・ブリヂストンの海外勤務経験者へのインタビューを通して、グローバル企業で働く人が実際に行なっている外国にルーツを持つ人とのコミュニケーションについて学ぶことができる

4. 指導案(50 分×2 コマ)

時間	活動	準備物等
8 分	(1)導入 ○自己紹介、授業のねらいについて説明 ○ブリヂストンの紹介(ブリヂストンがグローバル企業であることを紹介) (2)日本のグローバル化の現状 ○外務省及び厚生労働省のデータを提示し、日本の社会に外国から働きに来る人、外国で働く日本人のいずれも増加傾向にあることを確認	・講義用 PPT
7 分	(3)知識 ○海外での勤務経験を持つブリヂストン社員へのインタビュー動画を観せ、外国にルーツを持つ人と仕事をする上でコミュニケーションが大切であることを説明	・インタビュー動画
8 分	(4)ワークショップ(全 70 分・途中休憩を含む) ○ワークショップの説明 「海外の人と仕事をするときには、コミュニケーションが大切ということでした。でも、どうすれば様々な国の人と上手にコミュニケーションを取ることができるのでしょうか？今日の授業では、ワークショップを通してこのことを考えていきましょう。まずは、アニメーションを見てください。」 ○アニメーションの内容 ・とある町の中学生 2 人がボランティアの一環として、ブリヂストン関連施設に海外から来た研修生の子どもたちを地元の盆踊り大会に誘うことになる。 ・中学生 2 人は海外から来た子どもたちを盆踊り大会に誘うが、会場の場所を「来	・講義用 PPT ・アニメーション

	<p>ればわかるよ」と曖昧に伝えてしまったり、盆踊りのイメージを相手に上手く伝えられなかったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会当日、誘ったはずの海外から来た子どもたちが来ず、中学生 2 人は困ってしまう。 <p>○アニメーションにおける問題点を挙げる 「どうして海外から来た子どもたちは盆踊り大会に来なかったのでしょうか？」 →「日時や場所がきちんと伝わっていない」「盆踊りのイメージが伝わっていない」「盆踊りの魅力が伝わっていない」といった問題点を学習者と共に挙げていく。</p> <p>○ミッションの提示 「どうすればアニメーションの問題点を改善することができるのか、ワークショップを通して考えていきましょう」</p>	<p>・講義用 PPT</p>
5 分	<p>○ワークショップの流れの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 人ずつ班に分かれる。 ・各班を 3 人ずつ 2 つのグループに分け、一方のグループが海外から来た「ゲスト役」、他方のグループがイベントに誘う「招待役」となる。 ・「ゲスト役」・「招待役」にそれぞれ資料を配布し、資料を使ってどのように活動するかを説明する。 	<p>・1 回目のワークショップで使う資料</p>
12 分	<p>○1 回目のワークショップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備の時間(5 分) <p>「招待役」は盆踊り大会に関する資料を読み、概要や魅力を把握する。また、ゲストを招待する際にどの情報から伝えるかの優先順位を決める。</p> <p>「ゲスト役」は海外から来た子どもの設定資料を読み、ゲストの習慣や文化、盆踊り大会に参加するために求めている情報を把握する。また、設定資料に添付されている質問リストと設定資料を対照し、リストに不足している質問項目を補う追加質問を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招待・質問の時間(7 分) <p>「招待役」は「ゲスト役」がイベントに来られるよう、正確な情報の伝達、ゲストの心配事の解決を目指す。</p> <p>「ゲスト役」は海外から来た子どもになったつもりで招待を受ける。必要な情報が得られたら質問リストにチェックし、得られなかったら「招待役」に質問する。</p>	<p>・講義用 PPT</p>
10 分	<p>○1 回目のワークショップのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの結果、アニメーションの問題点が解決できたか評価する。 	<p>・フィードバック用プリント</p>

	<p>→「日時や場所がきちんと伝わっていない」という問題点は「ゲスト役」の質問リストがチェックできたかどうかで評価する。</p> <p>→「盆踊りのイメージが伝わっていない」、「盆踊りの魅力が伝わっていない」という問題点は、ゲスト役のうちで何人が盆踊り大会に行きたくなったかで評価する。</p> <p>・ワークショップ内のコミュニケーションを振り返り、「質問の意図が伝わらなかった」や「お互いが必要だと思う情報がズれていた」などの改善すべき点を挙げる。</p>	
5分程度	休憩	
10分	<p>○海外勤務経験者からのアドバイス</p> <p>・海外勤務経験者のインタビュー映像を観せ、異なる文化や習慣を持つ相手とコミュニケーションを取る時のポイントを伝える。</p> <p>・「質問の意図が伝わらなかった」→「自分の考えの理由や、相手にお願いする理由など「なぜ」をきちんと伝えましょう」</p> <p>・「お互いが必要だと思う情報がズれていた」→「様々な国の人と関わる時には、「普通そう思うよね」「当たり前だよ」は通用しない」</p>	<p>・インタビュー動画</p> <p>・講義用 PPT</p>
12分	<p>○2 回目のワークショップの実施</p> <p>・アドバイスを踏まえて再度ワークショップを実施する(町内バーベキュー大会に海外から来た子どもを誘うというストーリー)。その際、「ゲスト役」と「招待役」を入れ替える。</p>	<p>・2 回目のワークショップで使う資料</p>
10分	<p>○2 回目のワークショップのフィードバック</p> <p>・ワークショップの結果、アニメーションの問題点が解決できたか評価する。</p>	<p>・フィードバック用プリント</p>
10分	<p>(5)まとめ</p> <p>・授業のまとめ</p> <p>→様々な国の人とコミュニケーションを取る上で、「自分の考えや思いを相手に伝えるスキル」「相手の背景をふまえて伝え方を考えるスキル」「あきらめずに相手と対話するスキル」が大切である。</p> <p>・ブリヂストンにおいて、社内公用語を英語にしたり、ARなどのテクノロジーを活用したりして海外から来た人とコミュニケーションを取りやすくしている事例を紹介する。</p> <p>・世界共通の目標である SDGs を実現するためにもコミュニケーションスキルが重要であることを伝える</p> <p>・海外勤務経験者からのメッセージ</p>	<p>・講義用 PPT</p> <p>・インタビュー動画</p>